

俳句をはじめたきっかけは、二十年ほど前、TBSラジオの森本毅郎さんの番組に応募した俳句が入選したことでした。ゲスト出演の気象予報士の森田正光さんが「裕次郎雨」を季語として俳句を募集しておられました。俳優、石原裕次郎さんの命日の七月十七日は、毎年ザーザー降りの大雨になることから企画されたのでした。そこで、「裕次郎雨傘売る人の無口なり」を投句したところ秀逸に選ばれ、本阿弥書店の『俳壇』という月刊誌に掲載され贈呈されたのです。そして、この本で八木会長の滑稽俳句欄を知り、毎月投句するようになりました。

公務員として四十年勤めた後、生活安全相談員としての勤務を始め、まさに第二の人生が始まった頃に滑稽俳句に出会いました。お蔭様で面白おかしく楽しい生活を送ることができています。ただ、視点を変えたり、事物を観察する眼力はまだまだ鍛える余地があります。ごく自然に笑みがこぼれる様な句を作るのは大変です。

令和元年から始まったコロナ感染症で、およそ五年間は外出を控えなければならず、句作も低調でした。来年は八十歳になりますが、認知症予防、頭の体操のためにも精進していこうと思っています。

彫刻の裸婦に群がる遠足子
芋掘りの園児コロコロバスを降り
前箆に筍乗せて立ち話
春光を弾く乳房や裸婦の像
白鳥の風を抱きて着水す